SANWA COMICS No.32

小悪魔の降る夜に



富秋悠

YU TOMIAKI

SANWA COMICS

CONTENTS

Color Illustration
小悪魔の降る夜に
5

First Night
由　美
9

Second Night
マリオネット
29

Third Night
魔　性
47

Fourth Night
プレリュード
67

Fifth Night
憎　殖
83

Sixth Night
スレイヴ ハーツ
101

Seventh Night
錯　綜
119

Last Night
ラスト ナイツ
141

解説
海野やよい
166

SANWA COMICS No.32

小悪魔の降る夜に

雑誌53910-32　三和出版　定価880円(本体854円)

Yama Scan

小悪魔の降る夜に











First Night

由美

Yama Scan


!!
んあぁっ
ズッ
ズッ
あっ
ヴィーン
ビクッ
ビクッ
いっ
いやぁあ
ヴィーン
ヴィーン
ヴィーン
ああ
んあっ


あんんっ
はあ
はっ
ズッ
ズッ
キシ
キシ
いやあ
やめっ
ああ
誰か…
助けて…
ドクン
ドクン
ビクン
ビクン

何ィ!?
由美が屋敷を
出ただとォ?

!!

どういうことだ
中川がついて
いながら!!

全て
私の責任
です

由美お嬢様には
時間が必要です
心の傷をいやす
ための時間が…

またその話か
もう3年前の事だ
とうに忘れている

しかし……

中川!!
くだらぬ事に
いつまでかか
わるつもりだ?

申し訳あり
ません

……

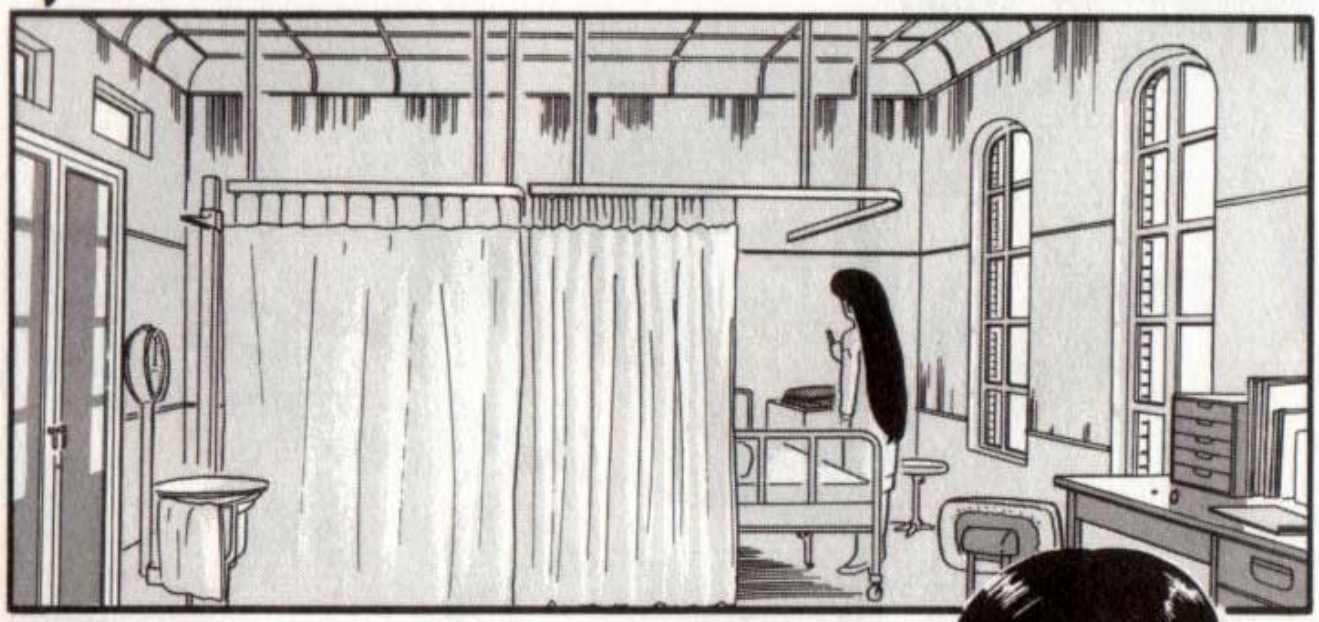
由美…
高峰由美


人気のなくなった校舎は
その歴史の重さに
高くそびえる墓碑のよう
……
今日もあの娘は
他の娘と口づけをかわす
——わたしはただ見て
いるだけ……


昨日落した筈の
バスケースが今日
私の手に帰ってきた…
でも……
スーッ
パッ
……やはりあの時……
……
ふーッ
そう——
何かを消し去ろう
とする様に熱く…
……


ニコッ
!!
キィッ
パタッ
バーサッ
——だとしたら彼女が写真を抜き取ったのかも…
ドッ
ドッ


下校時間は過ぎてますよ…
そわそわ
どう…
お腹が…痛くて…
あっ
フラッ
さぁ ベッドの方へ…だいじょうぶっ…？
せ 先生…
か…加納…さん……
カタッ
はっ
カチャッ
はあ
はあ
ドッドッドッドッドッドッ
はあ
あっあ




Pi
35.3

……


やだ…
何でこんなに
胸が高鳴るんだ
ろう…
どきどき


変ね 生理痛でも
ない様だし
体温も平熱よ…
ちょっと
ブラウス…
開けてみて
はい


ここは？
もっと下の方…
きゅっ
このへんかしら…
もっと下です…
くんっ
加納さん！
ぷう
わたしも先生のこと…
好きよ
わたし…可愛いでしょ フフッ
ぱっ
ぱっ
ぱっ


か返して…
どうしよーかなあ…
きゅ
本物(わたし)…ほしくないんですか？
写真(これ)見ながら慰さめる方がいいのかなあ…
……
ムク
なってもいいんですよ
先生の愛人(ペット)に…
やめて
くす
くす
スッ


先生…
はァ
はァ
ちゅッ
ぷちッ






先生の香り
わたし…
好き
……
すりすり


ん
はぁ…む


ぴちゃ


!
ぶちゅっ
カプ


ん
んふ


はぁ




はあ
はあ
あはう
あん


だめ…
気が遠くなる


ピチュッ
んあっ


先生でもこんな趣味があったなんて
……
あたしと和穂(あのこ)のを見て濡らしていたんでしょ
もっと乱れてもいいのよ……いかせてあげる
くちゃ
くちゅっ
……
ぬぃぱ
あふっ
はあ
はあ
あっ
はっ
ふーっ
だめや…やめないで…
ガサッ


!
ドッ
ガバ
あら!!
びっくりさせ
ちゃったわね
ただの電子
マッサージャーよ
バイブの様に
挿入感はないけど
新鮮でいいでしょ
ピッ
ピッ
横になって


ピッ
ピッ
はあ
あっ
ピクン
ピクン
んっ
ユッ
あん
ピッ
ちゅくっ
ピッ
ちゅ
ピッ
ちゅぷ
あふっ
あっ
んあ
んっ
はう
くん!
グッ
グッ
ピッ
ピッ
ぴちゃ
ピッ
ちゃっ


ガッ
あぁっ
ドクン
ドクン
だめェ
！
ビクン
ビクン
!!

あぶ
つはっ
冷ややかなベッドの中で
かわす甘い口づけに酔う……


ゴォン
ゴォン
――終業ベル……
舞香を待つ


来た!!
来てくれた!!


カイヤ




!?


あの……
加納先輩に
言われて…
ここが…苦しいの…
愛して下さいますか?


ええ…
わたしで良ければ

Second Night

マリオネット



Yama Scan


木枯しに凍てつく
校舎の中で
交す愛も
昨夜の夢と流れ——
ヒュオオ
ヒク
!!
——そして
今日の暁とともに
再びこみあげる
熱い愛にゆれる
カタ…
カタカタッ


風の音よ
ただの風…
いいもの
をあげるわ
?
!?
くち
勝手に
ぬいちゃ
だめよ
でも…
ん…
ぅ…
いいのよ
いやなら 無理に
とは言わない
から…
……
ぬ
ぷ


わたしは 微笑(ほほえ)を
うかべる彼女の中に
おそろしさを感じつつも
……
それにひたることに
快感をおぼえる


そう あこがれの
高峰先生♡
ああ〜〜
一ヵ月待った
独語特別講習(ドイツ)♡


どーして月に二度
だけなのかしら
無理よ だって
高峰先生ホント
は保険医だし
先生と一時間
同じ部屋にいられる
だけでいいじゃない


それにしても
きれいよね
なにか かげりの
あるような
あの表情…
女のわたしでも
グッときちゃう♡


しーッ
来たわ♡♡
ほらぁ
カチャッ


Gütenmorgen
おはようございます
今日は前半を会話の授業に
後半を普通授業の復習にしましょう
では テキストの28ページを右の列から順に読んで下さい
ニコッ
はい はい
ガタッ
えぐっ
あんたよ
由美先生リモコンのバイブ入れて来たかしら…
すこし舞ってもらうわ先生
ムキ
コッコッ
Religionsi
Jahrhunde
urch gute W
n, der diese
Irrtum
zehnjahri
-gen
nhinab, um
sietzt…er.
コッ コッ
!!
ブルッ
カチッ


ハア
ハア
ハア


先生…
先生っ
だいじょうぶですか
先生?
はあ
はあ
ぶるぶる


先生…
だ だいじょうぶなんでもないわ
授業をつづけましょう…
ザワザワ
ザワ


ヴッ
ヒタッ
と とまった…




今まで 時の流れが
こんなにも うらめしく
思えたことはない…
突然やってくる
震動におびえっっ
教壇に立つ…


加納舞香(かのうまいか)の
ひややかな視線を
背中に感じる
でも……
それでも私は…


……
パ
フッ
ポロ


ガクガク
あうっ
くうっ
はあ
はあ


…また…!


でも…
いつものきれいな鳴き声が聞けないのが残念ね…
ズッ
体が浮く…
先生!?
先生
高峰先生!!
高峰先生
しっかりして下さい!
先生!!




気分はどお？
先生…
生徒の前で
いくってどんな
感じかしら…
……


私立のこんな
エリート学校の
教師が…
淫乱でしかも
同性愛者…
とんだ
スキャンダルよね
くす


すてきだったわ
あなたのショー
さわさわ
教室で乱れる
女教師…
こんな
ふうに…
しわっ
!!


あはっ
くふふふ
ははっ
嫌ああっ
やめてェ
うう…
やめて…
お願い…
見て…
先生


こんなになっているの
先生のせいよ…
……
不公平よね
くちゃ
一人でいっちゃうなんて

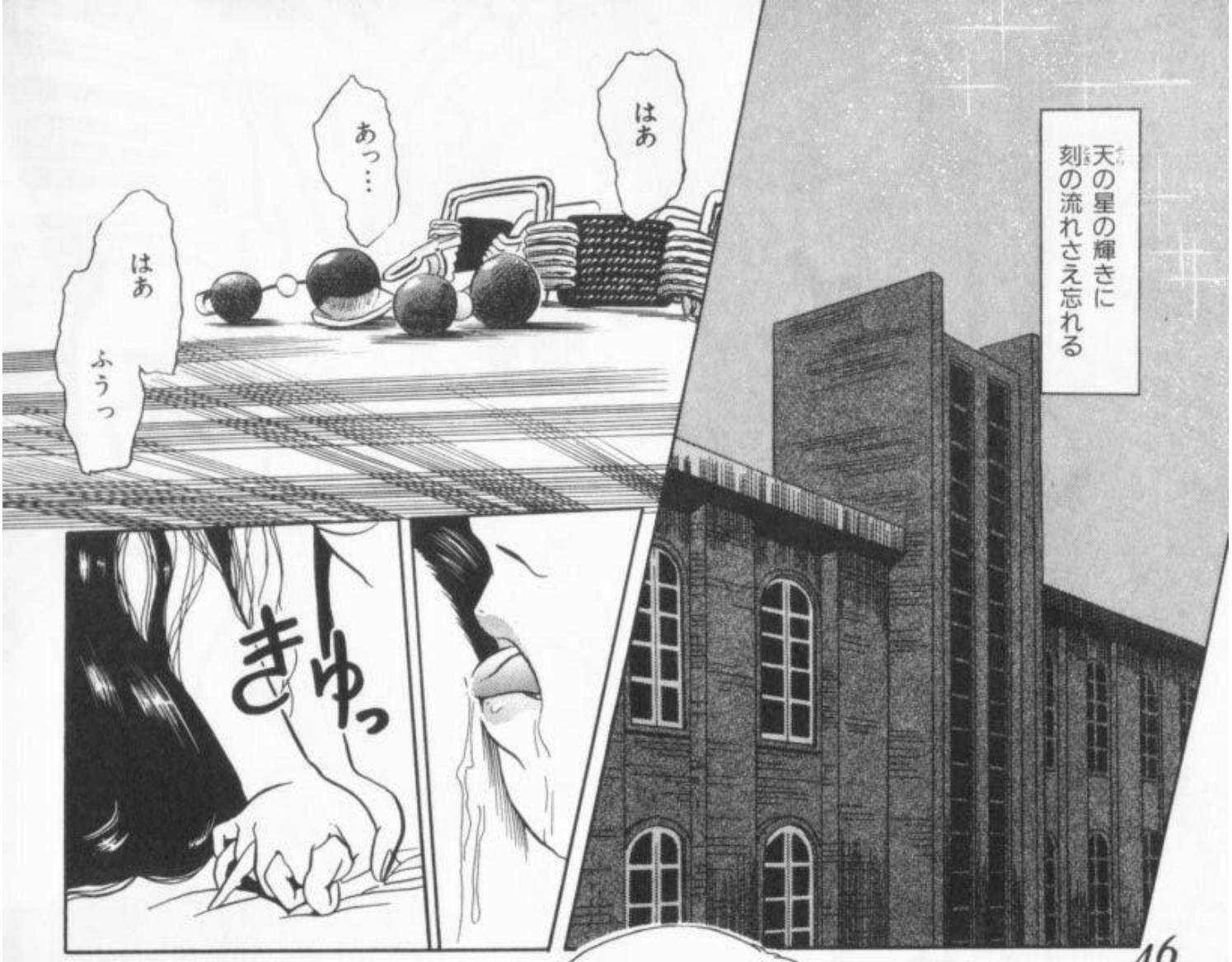

あぁ…
はぁ
はぁ
ぴちっ
くちっ
はふっ
あん
はぁ
ゴッ
ぴちゃ
ぴちゃ


ぴしゃ
ぴちょ
力をぬいて
これを
あげるから…
!?
いやあ
そんな太すぎる
ぐぐぐっ
ぎゅ
ズズッ
ゲッ
やめてぇ
いやあ


気にいってもらえたみたいね
先生のために用意したのよ
あっ
くうっ
ビビ
今スイッチを入れてあげるッ
ムフフ
カッ
ガバッ
ブブブブブブブブブブブブ


ビシ
ビシ
あはっ
あっああ
んうっ
こっ…!!
こわれるうっ…!!!


ドン
ワ"ッ
あっ
あ…
あ…あ…


天の星の輝きに
刻の流れさえ忘れる
はあ
あっ…
はあ
ふうっ
きゅっ


恐怖にも似た快感に
拒む術さえ知らない私は
今宵も彼女の望むままに
舞う マリオネットになる

Third Night

魔性

引き返すことのできない
迷路を進むように

私はおちてゆく——

Yama Scan


和穂ちゃん
はあ
ふっ
ぎゅっ
お願い…
い いきたいの
あそこ…ほしいの…
ハァ
ああっ だめェっ
せ 先生…
んくっ
ハァ
ハァ
しちゃぴちゃ
はあ
あっ
あんう

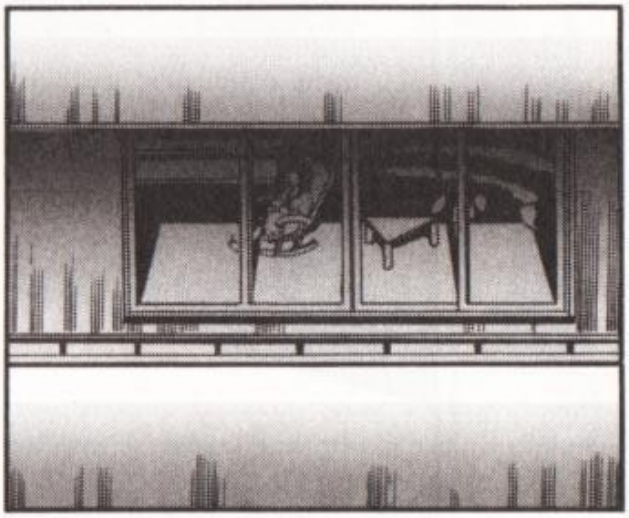

んっ
んふ
……
ぴちゃ
せん…せい…？
……
もうだめ…
こんなことを
くり返していては
終りにするのよ
今夜で最後に
いまさら
おそいのにね
先生
やっぱり
和穂が相手じゃ
無理のようね…

Third Night

魔性




桜華女学院高等部学寮






ガラッ
ここの警備あいかわらずなってないな
遅かったわね邦雄
タムッ
ああいろいろいそがしくってね
電話なんてめずらしいじゃないか
俺のこと恋しくなったのか
冗談が好きね
元気だけじゃ女はダメなのよ
そんなことを言うために俺を呼んだのかよ
せっかちね


はっ
んふっ
はあ
はあ
じっ
じんっ


その女…
先生なんだろ
いいのかよ
君の気にする
ことじゃないの！
あたしの言うとおり
やってくれれば
いいわ…


荒っぽいのは
きらいか
しばらく会わない
うちに うまく
なったのね


ズッ
あん!!


先生がいい
からな 経験を
つんだのさ
んっ
ツボも知って
んだぜ…
ここだろ


今日は理事長(パパ)の方の相手はいいのかよ
出張中なの 今夜は 絶対来ないわ
ぐん
!?


なら今日はたっぷりと楽しめるな
起床時間には帰るのよ
わかった?
ぐち


舞香(まいか)は恐い女だよ
ズプッ
ズプッ
せめて今は可愛い女でいてほしいね
フッ
本当にね…


邦雄 まだ
終らせちゃだめ
由美
本命が
来るから…
あはっ
ん
はあ
はあ
あっ
カサカササッ


——夕刻 今日も
舞香がいつものように
保健室で待っている
胸の高鳴りが私から言葉を
奪い「終り」を告げられない
——今日こそは…
ガヤッ
舞香…!!
あ…
タンッ
すっ
先生
いいもの
見せて
あげる
しま
きゅっ
ああっ
!?
んふっ


ヒイアアッ
あふっ
ふう
くあっ
ズキ
ズキ


!!!
じゃぶ
お願い！
やめさせて
あんな…!!
こいどい!!!


……


はあ
……
はあ


ぴたっ
ふう
はぁ


くねくね
もっと…
ほしいのォ
くふっ
あっ…
お願ぁい…
んう…


和穂…
和穂に 何を
言ったか知らないけど
無駄だったようね


ほら あんなに
深々と男のモノを
くわえこんで……
じゅぷ


どうしたの
見てあげなさいよ
……
はあ
由美だって あのコの
性感を育てた一人よ
それとも嫉妬?
あくう


ご覧なさい
あのコを
くちょ
くちょ
あんあっあ
かわいい顔をして
いても 淫らに
腰を大きく振って
自分から求めてるワ
はう…んふ


んあぁっ
!!
ビクン


先生も湿ってきてるんじゃないこのあたり…
次は先生のを見たいなわたし…

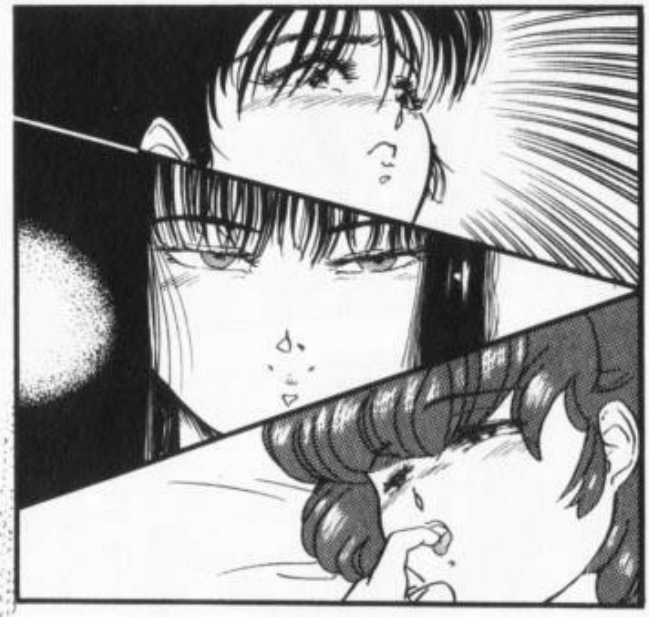

あらあら見事な果て方ね
(はっ)
(はっ)
ピクピクン
こーゆーの至福の表情って言うのかしらね…


キッ
怖い顔…
…
いやなら無理にとは言わないわ
次は和穂のかわいいお口にアレをほおばらせようかしら…ね


その方が
和穂もよろこぶ
かしらね

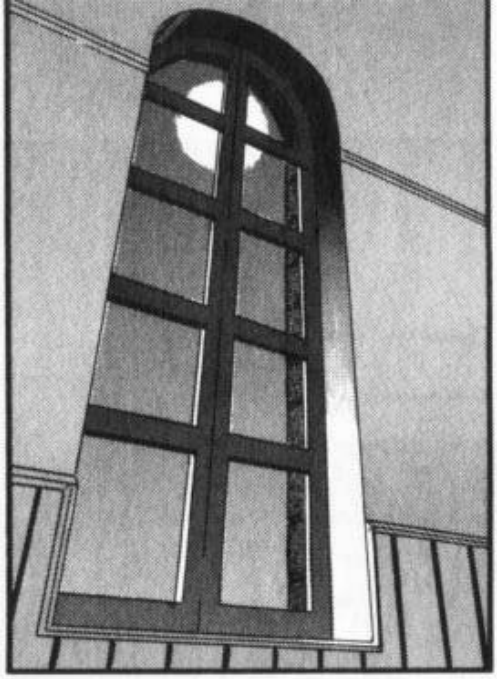

ま待って…
わたしが…
するわ


間違わないで!
やる気のない
セックスほど
見苦しい
ものは
なくってよ
でも このコは
自分から求めるわ
先生にできるかしら




お願い…
わたしに…
させて…くだ…さい…


スッ
しゅす




邦雄にはちょっと過ぎた相手かしら
へへ…
まいったねこりぁ…


おいしそうね…和穂
先生があなたに何て言ったか忘れているような光景だわ
くちゅ
ぴちゃ




あなたは先生の相手なのよ
……
それを忘れたら次は男ひとりじゃすまないからね


!!
ドロッ


ふう
ふう


ぎゅぷ
ちゅ


ピクン
ピクン
ビシっ
ゴクッ
あれが由美の本性…
生徒の見てる前でよくやるワ
せ…先生…
じゃあいただくとするか
ぐいっ
!?
いやあ…あんたには
先生なんて仕事もったいないぜ
……


あっ
なかなか具合がいいな
んっ
ああ
あはっ
んあっ
は
はあ
ハアう
んっ
あっ
そんなにほしいんなら上になれよ


んくっ
ふう
だめ…
もう…
いっちゃう…
ぴくん
ネンネの娘じゃ
あるまいし
もっとしっかり
腰をつかえよ！
ホラア
ヒあっ
ギリ
ほしいんだろ
なら遠慮する
なよ
んっ
んふ
そーだよ
やればできる
じゃねーか
ゆさ
ゆさ
ぷるるるるる
くふ
誰が休憩しろって
言ったよ！
ゲシッ


あっ
ビリッ
ふぁっ
あん
ズッズッズッズッ
あひっ
くすくす
ビクッ
ビクッ
ビクッ
なぜ…
…舞香…


——夜……
白昼は束いはずの校舎…
それは闇の塊と化し
月の明りさえとどかない
でも その中には
舞香の冷くゆらぐ
蒼い炎を感じる


この学校の理事…
そう高峰栄輝には
わたしが見た
地獄を味わってもらう


由美は好き…
でも例外はないのよ
姉さん……

プレリュード

小さいころから父のもとで自由のない生き方をさせられた…だからこそ父のいない留学先のドイツで——

——彼との深い恋に落ちていった…そうして…彼につきまとう影も幸福だった私には遠い世界の事だった

ただ 彼のそばにいるだけでうれしかった……

「アルベルト…」

「ウソよね…ウソと言って」

しかし……そんな私のことを見逃すお父様ではなかった

「ユミ…日本に帰るんだ…」

「たのむ…そうしてくれ」

「どういうこと!? 彼に何をしたの 中川さん!!」

「どうして そっとしておいてくれないの」

「君を返せば僕の診療所の負債は消える」

「もともと僕には力がなかったんだ…君にはすまないと思っている」

お父様らしいやり方だった 彼の経済状態を調べあげたお父様は 秘書の中川を私達のところへ送り込んだ

中川は 彼に選択を迫った 負債とともに私と暮らすかそれとも 私を手放し無期限の融資を受けるかと……

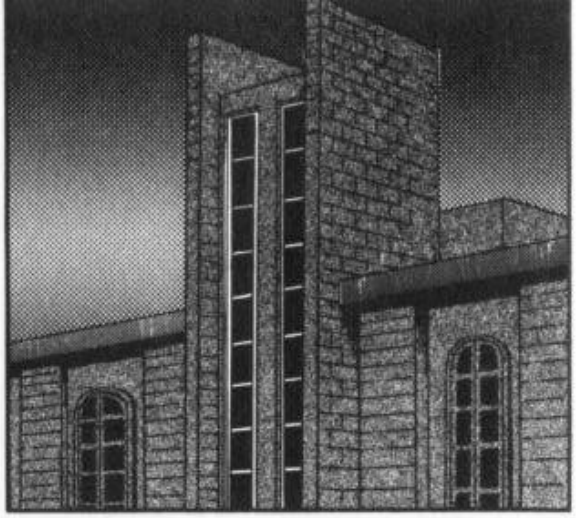
Yama Scan

Fourth Night

プレリュード









昨夜(ゆうべ)…
忘れたはずの記憶(ゆめ)を見て





今日は朝から憂鬱(ゆううつ)な
気分にとらわれている…




高峰財閥当主 高峰栄輝
桜華女学院理事長
そして 私の父


私はまだ夢の続きを
見ているのだろうか…
あの時のまま私の心が
凍りつき 止っている…


まだ
わからんの
かあ!!
くっ


私は奴を救って
やったのだ!!
少し頭を冷やせ!!
一時の気の迷いで
行動して良い歳では
なかろう!!
……


中川 由美に
ついていろ
間違っても
ドイツへ行かぬ
ようにな!
はっ


父にとって
娘の私には
かごの中の鳥ほどの力
もないのかもしれない


保健室
舞香が和穂を自由にしていいって言ってるから
お姉さまが？
わざわざ足を運んで来ているんだぜ 俺は…
……
コク
ニヤリ…
いい子だ
くちゅ
ピク
つ～
スケベなガキだぜ しっかり濡らしてやんの…
……


カチャ
！
あ…
何をしているの!!
は 早く出て行きなさい!!
へへへ…そうじゃけんにすんなよ
用がすんだら出て行くさ
先生
ぴと
！
さあ 俺の方は火がついちまってるんだ
それとも先生が相手してくれるかい？
それなら それでもいいぜ
……
ちっ
先生 そいつをこっちにもらおーか！


OMNI
—HOTEL OMNCIDE〈ホテル・オムニサイド〉—
!!
ビク
すっかりきらわれたようだな…
いいだろォどうせ向こうからはすけて見えるんだからよ
パシャ
パシャ
パシャ
パシャ


和穂って娘を使えば先生が出て来ると思っていたよ
どうだい先生よォ
くちゃ
べちゃ
ああっ
ぐっ
ぴちゅ
ぷちゅ
やめてェ…
ぐじゅっ
くりくり
いっそのこと俺の女にならねーか
この前から先生の体が忘れられなくてよ
やぁはぁぁ
あふう
ぬに
くっちょ
これはシャワーの水じゃないんだろォ


!?
グズ
んっ
んうぐうっ
ジュッグッ
ぐちゅぱっ


ぴんっ
ひあっ
クッ
ズズ
舞香とやる時はこれより太いのをくわえてるんだろ
あふっ
ああっ
ん!!
ぴちゃ
じじっ
くちゅ
ズッ
ズッ
ああ…
アルベルト


もっと強く…
抱いて…
アルベルト
はあ
!?
はあ
はあ
はあ
ゆ!!
あふっ
はあ
はあ
〝アルベルト〟？
何だ？男の名…？
はあ
ちゅちゅ
ちゅぱ
はあ
はあ
ドクン
はあー
んう
はあ
くふっ
あは
うっっ
ぐんぐん
ぐんぐん


んん…
くちゅ
ぴちゃ
ズッ
ぐぐっ
やっと
お目覚め
かい…
もう一度 さっき
みたいなのを たのむぜ
ただし今度は
俺の名を呼んで
もらうぜ…
ぐぐぐ
あぐ
いたっ
ぐりっ
お願い…
あまり乱暴に
しないで


前の男はもっと優しかったか？
あいにく俺は荒っぽい愛し方しか知らないんでなあ
……
どうだいさっき先生が足をからめてくわえたモノの味は
うっ
んくっ
俺はなぜこんなに怒っているんだ？この女に以前男がいたから…嫉妬!?まさか


くあっ
ああっ
ぐぐっ
いやぁ
んんっ

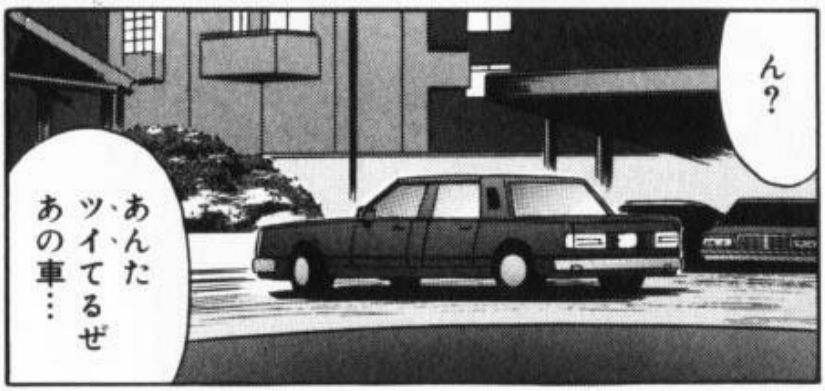




── メゾネット パークヒルアベニュー ──










お父様!?
どういうことあの二人がなぜ一緒に!?
知るわけないだろ 先生の親父が舞香の愛人だなんて初耳だぜ


おい
ガチャッ
どうするんだよ!!


ゴーン ゴーン
?
お…!! お嬢様!!
中川… おしえてちょうだい
加納舞香とお父さまの関係を…?!!



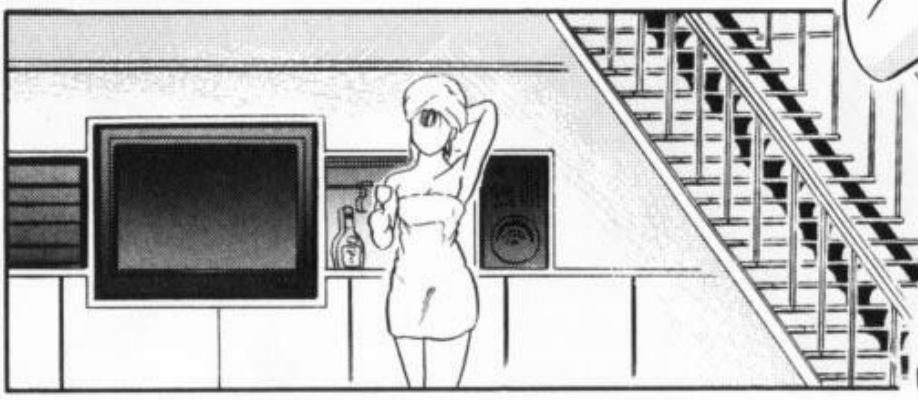
Fifth Night

憎殖

Yama Scan



メゾネットパークヒルアベニュー









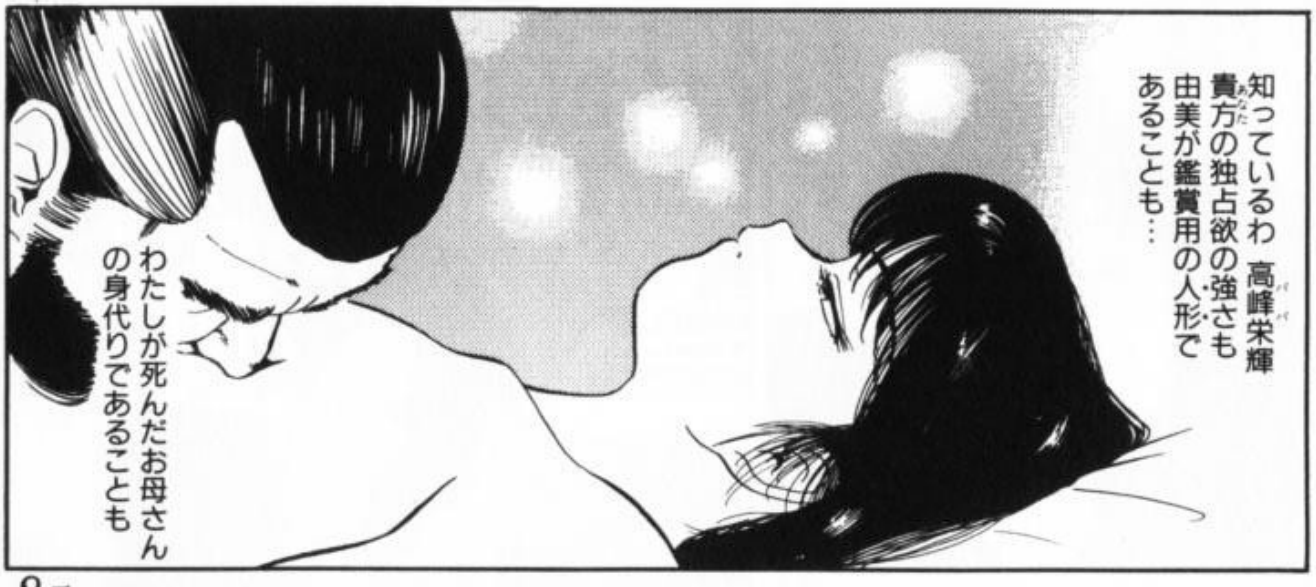

私に会えなくてさびしかったとでも言うのか？
くす


分かっているぞ由美と違ってお前はりこうな娘だ
由美は世間知らずのせいか心が表に出る

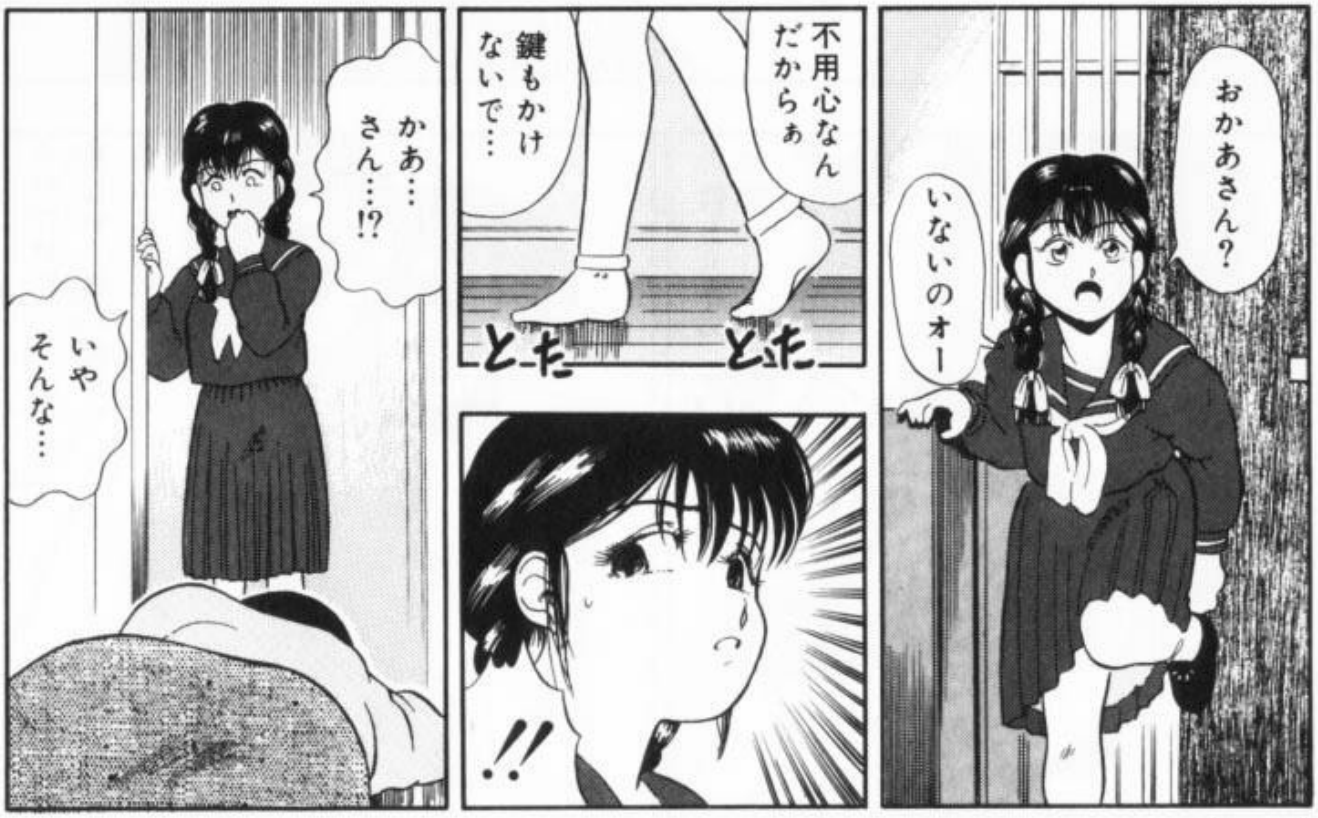

それだけに愛しい…嫁に出す気にはなれん
特にドイツで知り合った貧乏医者の息子になどにな…


お前もそうだ舞香
……

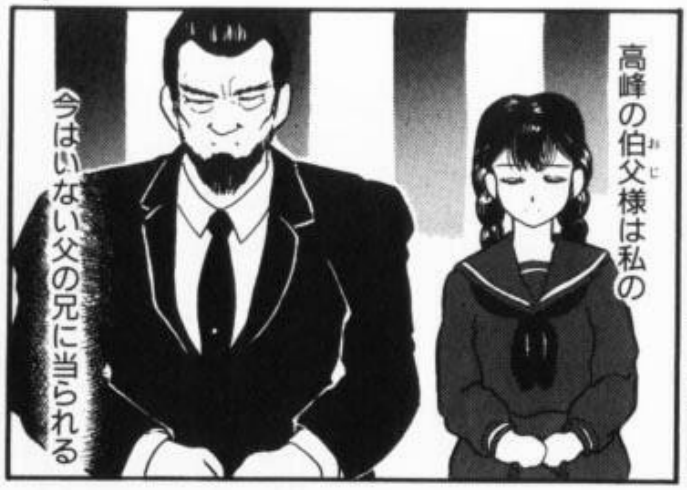

私が老いても手ばなすものか私だけの女だ…


知っているわ高峰栄輝貴方の独占欲の強さも由美が鑑賞用の人形であることも…
わたしが死んだお母さんの身代りであることも


3年前
ただいまー


おかあさん？
いないのオー
不用心なんだからぁ
鍵もかけないで…
とた
とた
かあ…さん…!?
いやそんな…


!!
おかあさん目を開けて!!
いやあたしを一人にしないで!!
母と二人きりの生活をしてきたわたしには
その死はあまりにも突然すぎた

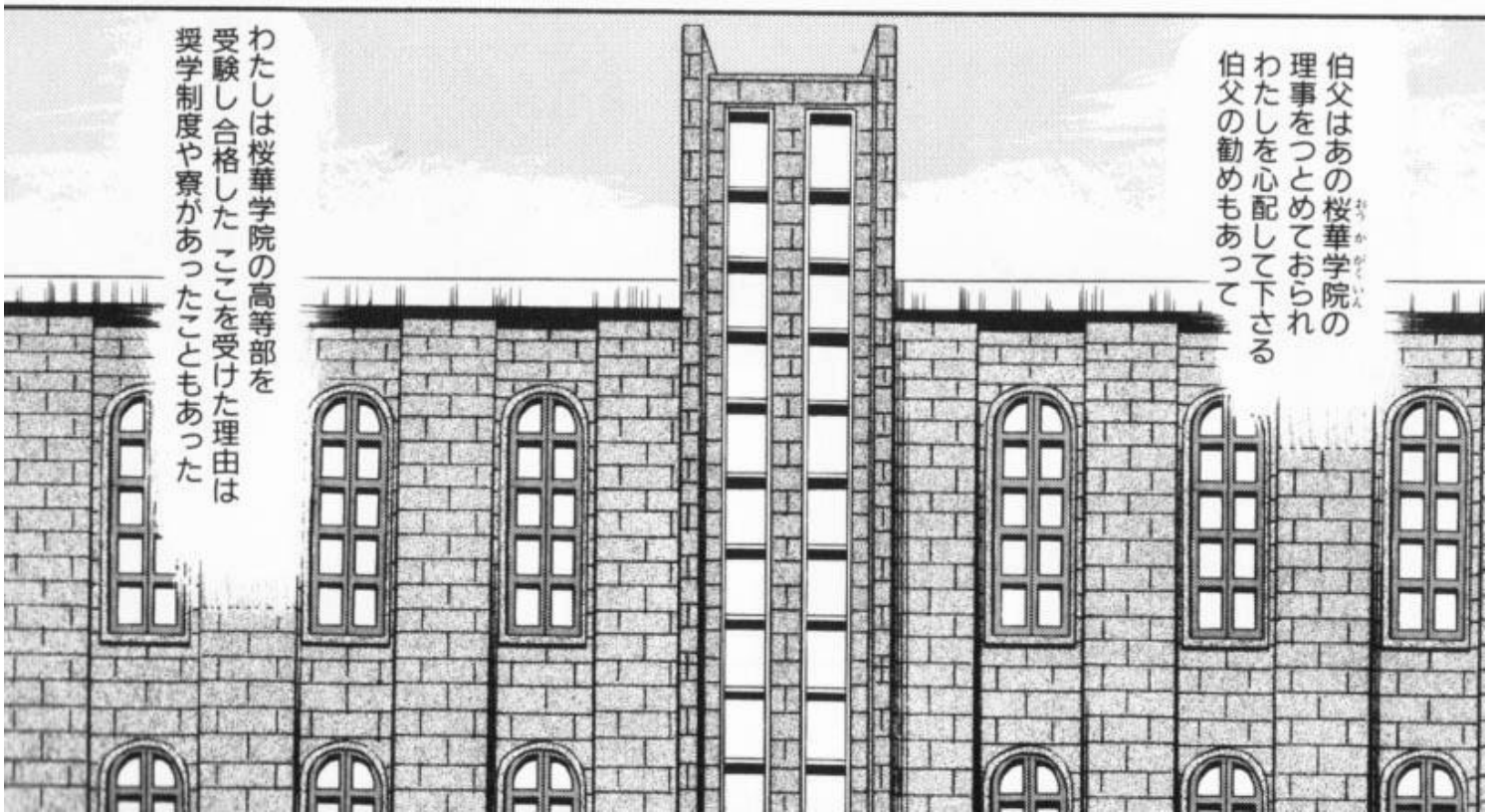

高峰の伯父様は私の
今はいない父の兄に当られる

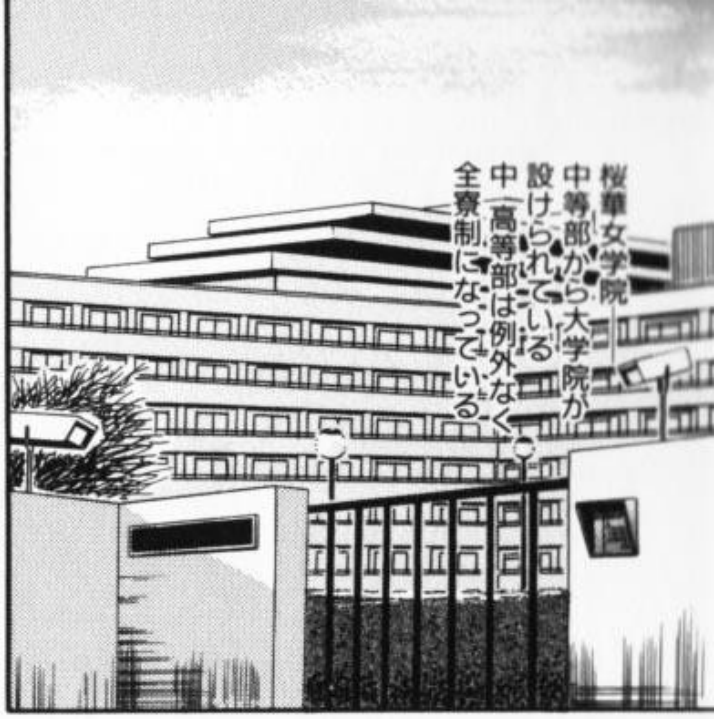

母の葬儀などは
高峰の伯父様がすべて
面倒を見てくれた


お母さんが亡く
なったばかりで
とても言い
にくいのだが


他に身寄のない
母やわたしにとても
良くして下さる
疲れただろう
舞香…


舞香を私の養女
にむかえたい
いや…なに
おちついて
からで
いいんだよ
そんな…
わたしなんか


伯父はあの桜華学院の
理事をつとめておられ
わたしを心配して下さる
伯父の勧めもあって
わたしは桜華学院の高等部を
受験し合格した ここを受けた理由は
奨学制度や寮があったこともあった


桜華女学院
中等部から大学院が
設けられている
中・高等部は例外なく
全寮制になっている


加納様のお部屋は
S－802号室になって
おります


S-802
あの…
何かの間違い
じゃあ…
わたしは個室を
貸りられる程…


何をおっしゃるんですか
あなたは理事長の
姪に当られる方
それに先刻から
高峰様が中でお待
です…さあさあ
伯父様が…!?


伯父様
舞香か…
入りなさい
見えない所で
伯父様の権力が
動いている…
この胸さわぎは!?


伯父様あの…
このお部屋
気に入ってくれたかね？
は…はい
そうか お前のために用意させた甲斐があったよ
では寝室に案内しよう
ん？ ふるえてるな 寒いのかな
いいえ
体のふるえが止まらない…!?
恐い…!?
!?
きっと良い夢が見られるぞ
この寝台も舞香のために仕立てたものだ…


あ
ガ
ッ
フッ
お伯父様!?
なにを?
なぜ こんな
ことを…!?
舞香…おまえはこの先
何の不自由もない——
キュッ
生活ができる
お前の母のように
その言葉は明確に
伯父と母の関係を
語った
そしてわたしがこの先
どうすれば良いかも


舞香はりこうな娘だ
私が何を言っているのか分かるな?


そうだ… 舞香は何も心配する必要はない
私にまかせておけば 望む物は何でも手に入れてやるぞ


ばっ
あっ
イッ
いやっ
ああ…
いやっ


若い娘(こ)はういういしく
実に美しい…
フフフッ
お前を見ていると
死んだお前の母親の
若い頃を思い出す
ズ
ぐぐぐ…
痛!
ぐに


んっ
ううっ
ぴちゃ
ぴちゃ
もう少しの辛棒だ
じきにその痛みも女の快感へと変わってゆく
くぱぁ
くちょ
…あ
いやあ…
ゴロッ


ぐっ
ふるふる
くちゅ
ズズ
ぴちぴち
もう許して…
お おじ…さまああ…
くちゅくちゅ
あ
ぐい
お母…さん…
ぎゅ


グッ
ズッ
んんん
ぴくん
んうっ
パタッ
パタ
タッ
くはっ
ぐっ
あうんん


うぐ
ふっ
ズボッ
ん
ズブッ
ぐっ
ぐっ
くぁぁ
ああ
うふっ
ぐっ
ぐちゅっ
ぢゅっ
ぢゅっ
うっく
いっ…


つああ
あん
ズリ
ズズッ
ズッ
ズッ
ヒクッ
ヒクッ


苦悶と痛みからの
一瞬の逃避だった…
——それは
そして 止めどもなく
あふれてくる 悲しみと涙を
おさえつけるようにして
自分に言い聞かせた
「もう伯父にすがって生きて
いくしかないの…」と…


貴様も
どうだ 一杯


いえ…
自分はまだ
仕事が
相変らず
堅いな


会長
おたわむれも
ほどほどに
なさいませんと…
わかっておる!
貴様の意見する
余地などない
舞香の母親(舞代)は
何の取りえのない女
…男に抱かれる以外
はな
借金のかたとして
働かせられていたのを
私が救ってやらなければ
遊女のまま終っていた


しかしなそれが
あの女の運命だった
のかもしれん
心残りだったかもしれんが
舞香を生み母親として生き
られただけで幸せだったろう
母親
舞代のかわりに
娘
舞香をかわいがって
やる…フフフ


悪いようにはせん
舞香も血をわけた
可愛い娘だからな
……
で？中川…
由美の件 続きを
聞こうか？
はっ 明日の午後
部下とともに 私が
ドイツへ行きます
そうか…
あの人が…
私の…お父さん？
でもお母さんはわたしが
幼い時 蒸発したって
ウソよ
こんな…
お母さん
おねがい…
ウソだと…
ウソだと言って

Sixth Night

スレイヴ ハーツ

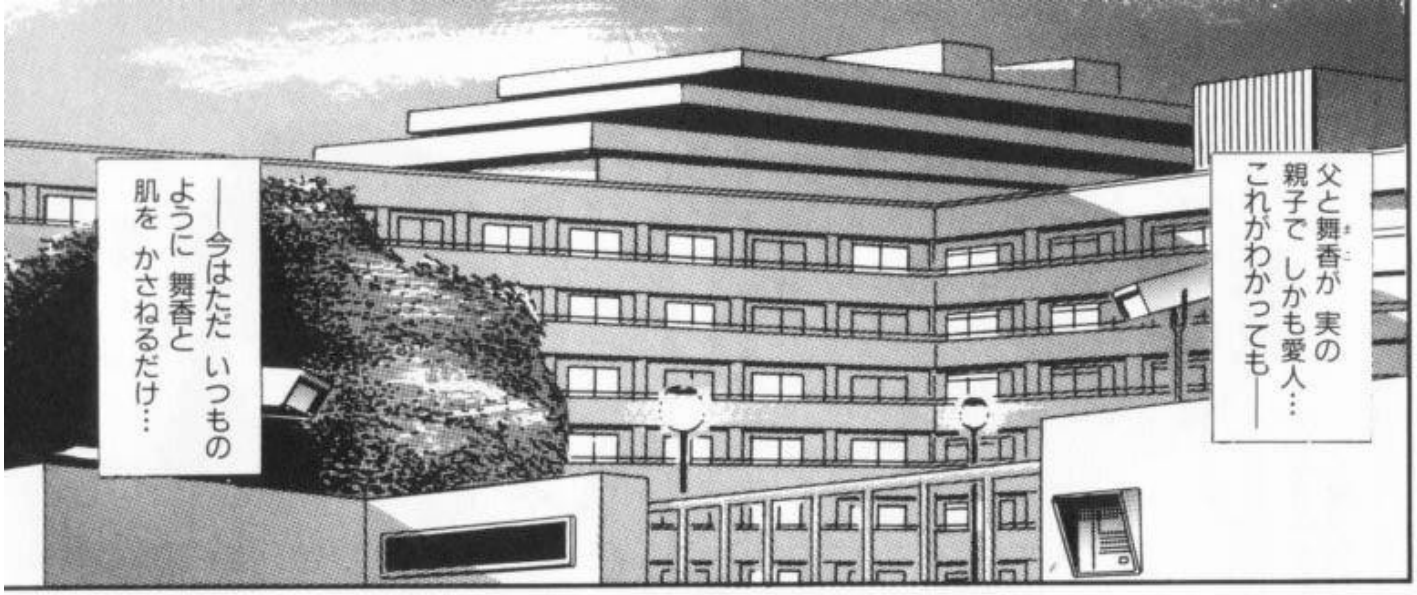


Yama Scan


中川…
私の質問に
答えて！
今は
どうか
お許しを
いずれ…
わかりました

由美様…!!
お父様に会って
直接 聞きます!!
くる
お待ち下さい!!
ザッ
加納様…
舞香様は
3年前に
亡くなった
お妾と 会長との
間に生まれた
方でございます


今は
母親をついで
会長のお傍に…
この場は どうか
お引き取りを…
!


父と舞香が 実の
親子で しかも愛人…
これがわかっても——
——今はただ いつもの
ように 舞香と
肌を かさねるだけ…

桜華女学院高等部学寮


……


不思議？
孤児が
こんな個室に
入れて…
そんなこと…
昔ふうに言えば
パトロンね
いるのよ…
このわたしにも


青山にも
部屋があるの…
興味ないか…
先生には
それとも
嫉妬してくれる？
くすくす
…


由美…
きて…
抱きしめてあげたい…
私の妹として
でも今は それさえ
してあげられない…
そんな…!!
だ だって
実の娘よ!?
そんな ばかな
ことが!!
会長は…舞香様の
伯父ということに
舞香様は事実を
知りません


本当に 知らないの
かしら……!?
いいえ…違うわ…
舞香は…


もう知っている


!?
ぶるるっ




私の父が この子の
本当の父親である
ことに…
そして 私と初めて
出会った時から
こうなることも
ついさっき
お手洗いに行った
はずなのに…
え!?
何?
ビュ
ビュん
!?
ギュギュッ
!?
!?
ズン
ギュッ


こんなのいや!!
早く取って
何をあわてて
いるの?
そんなひわいな
下着を
つけてる人が
わたしのプレゼント
だけど 本当に
着て来るとは
思わなかったわ
……
でもとても
にあってるよ
お願いだから
早く……!!
早く手錠を
取って!!
!?
それでやって
見せてくれたら
考えても
いいワ…ﾌﾌ


そ…
そんな…
はずかしいこと
できない!!
もじもじ


……
あらあら♡
欠壊寸前の
ダムみたいね
ガチガチ
もう許して
…お お願い…
お手洗いに
行かせて
ちょうだい…
我慢できない…
ううう…う
プリッ
くちゅっ


苦しいでしょうねー
まめ
利尿剤入りの
ワインを飲んだ
あとだもの
そんな…
ひどい
これ以上シミを
ふやしたくないワ
早くやりなさい!
膀胱を楽にしたいでしょ
……


くふっ
あう
ああ
はあ
はあ
はあ
何故…
あなたは私を
くるしめるの?
かならず後は
とても優しく
してくれるのに…
ビクン
ビクン
あっ
んん
んあ


そうよ
由美…
もっとみだらに
はあ
はあ
はあ
あなたは
変ってゆくわ
くちゅっ
きゅっ


ふるる
んくっ
はあ
あっ
ああん
ふああ
ズズッ
くぷっ
ズッ
くぷっ


どお由美
気持ちいい
？
下のお口は
おいしそうに
バイブを
食べてるわ
いやあ…
い言わない
でェ…
遠慮しなくても
いいのよ もっと
良くしてあげる
いやっ
ヴィイイイ
あうっ
ガクッ
ふあ
ガクン
ガク
ビュッ
あっ
あはっ
はあ
はんっ
うっく


いやっ
ああ
そんな
ぴしゃぴゃ
ちょろろ
ぐぐぐぐぐ
だめ
ちょろろあああああ
いやああああ


そろそろ
キュッ
雲の上から降りてもらうわよ 由美
ゆっ


うぐっ!?
ガッ
ギッ
どういうつもり？ベッドの上で失禁するなんて…
犬や猫だってトイレの場所くらいわきまえてよ
んん!?
まったく…動物以下ね
クセの悪いお尻にはお仕置きよ！
ピチャ
レクン
まあ！あんなにたくさんほおばってたのに
もおこんなに愛液をたらしていやしいの
んう
ううう


さぁ 自分で
くわえるのよ
！
たっぷりと
味わうのね


……


わたしの言うことが
聞こえないようね


むう
うっ


さあ 早く
それとも もっと
ムチがほしいの
かしら
ううっ…
ふくっ


ずる


いい子ね
そうよ うまく
腰を使って
うっ
んふっ
ズズッ
ズップ


ぴちゃ
!!
かわいそう…
みみず腫れになってる
でも 由美も
悪いのよこんな
ことわたしだって
したくないの
素直な由美が
一番好きよ
だからいっぱい
感じて
うっ
ふー
ふー
ぐぃーッ
ひいっ
むうっ
うぶ!!
ぐふっ!!
うふ…
ふーッ
うっ


もっと腰を上げるの!!
ビクッ!!
…ひ
!
ぐっ
うっ!!
ジャラッ
ビクン
ビクン
んおお
んうっ
ズッ


はあ
はあ
ぐっ
はあ
いたあっ!!
姉さん…
……
だめ…!!
ここで
ためらっては
だめ…
ニル
キ
ラ
キ
心配することないワ
だって もっと
素敵になれるのだから


舞香も私と同じ鎖につながれている
お父様によってつけられた強力な…権力という鎖…
そして舞香は 私をここまで変えてしまうほどに辛い思いをしてきたのだろう…
きれいよ由美…
わたしと…
同じくらいに…ね
もうあなたは一人じゃない私も 時間から逃げるような生き方はやめるわ
なぜなら…私には妹が…いるのだから

錯綜

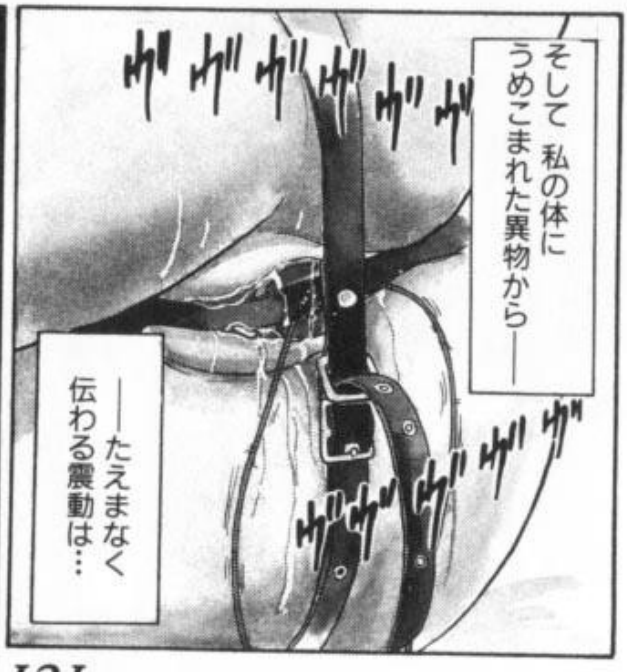

あの夜から一週間が過ぎようとしていた…
わたしが学校から帰ったら——
——外に出してあげる
だからいい子でまっててね…フフフ

Yama Scan


Seventh Night
錯綜


はっ
ふっ
ふはあ
ううう
舞香は 私から自由を奪い
はずかしめることで——
——羞恥心や自尊心を
取り上げようとしている
タ〜ン

うっ
んくっ


そして 私の体に
うめこまれた異物から——
——たえまなく
伝わる震動は…


…確実に心をむしばんでいく…
くひっ
ふ
はっ
うっ
舞香の思いのままに
私を変えるために…





そして 昇りつめるたび…
ドイツのアルベルトと
結ばれた黒森を夢見る

アルベルト 助けて
……Arbert



私は留学先のドイツで
大学の臨時講師をつとめる
アルベルト＝T＝グデーリアルと
出会った…

毎夜の せつない思い…
彼のそばにいるだけで
ひとりでに高鳴る胸…
…父の監視の下で
自由を知らない生活をしていた
私にとっては すべてが
初めての経験だった…


一九八五年八月
西ドイツ
シュバルツバルト
(黒森)
ユミ 俺とつきあってくれてもいいだろう？
ごめんなさい…ハンス
私は大学の友人たちとアルとで夏休みの数日を過ごすためにシュバルツバルトの小さな村へ来ていた…


グデーリアル…あいつなのか？
……


俺のどこが悪い？なぜ？
ごめんさいあなたの責任じゃないの


わかったよユミの気持は
？


そーかい


なぜ あいつにこだわる
親の借金で首を回すこともできない奴に！


ハ！
ハッ


よせ！ハンス!!
!
悪く思うなよな
カチャ
カチャ
アルベルト
あいつには
君を愛する余裕
なんてない!!
うっ!
ぐに
くそオォ！
お前が消えろ
グデーリアル!!
彼女から
離れるんだ
山小屋(ヒュッテ)へ
帰れ みんな
待ってるぞ
ゴゴゴゴゴ
!?


!!
た 立てよ!
立って
かまえろ
ああ
今 立つよ


さあ
気のすむまで
なぐるといい
しかし彼女には
何の罪もない…
もう手を出さないと
約束してくれ
…たのむ
……
やめとくよ
サンドバッグ
たたいた方が
まだましだ
どうかしてるぜ
あんた!




ユミ…


驚かせて
しまったね…
……


私達は愛しあっていた
——しかし 彼の父親が
残した診療所と 多額の
負債が 彼の愛を
とざしていた
彼の良心が 私への愛を
許さなかったのだが…
彼の思いは 私の愛を
更に確かなものに
していくことになった


さあ これを飲んで
鎮静剤だ
落ち着いたら
ロッジまで
送ろう
もどり
たくない
みんなのいる
ロッジにも…
日本にも…
あなたのそばが
いいの…
ぐぅ


僕には 君の好意を
うける資格がない
いやっ!!
ユミ…
抱いて
下さい…
わたしを
……
カシャーン


Ich liebe dich
(愛している)
Ach…Arbert
(ああ…アルベルト)
このまま 私を
日本に
帰さないで…
Danke schön Yumi
(ありがとう ユミ)
!
あなたの事情(こと)なら
知っています!!
でも…
でも!!
わたしはあなたを
愛しています
どんな苦労にも
耐えます!!
…だから




きれいだよ
ユミ…
はあ
チッ
あん
ふー
チッ
チッ
ん
はあ
はあ
ああ
アルベルト…


あっ
はあ
はあ
クチャ
クチャッ
あっ
あん
んふ
はあ
はあ
あふう
はあ
はあ
ピクピクッ
クチャ
ニチャッ
はあ
はあ
んふ
ピチャッ
ああっ


ユミ…愛している
この世の誰よりも
いくよ
ユミ…
!!
コクリ
ああ…アルベルト
あなたを永遠に
愛し続けます


アル…あなたとなら
どこまでも
ついていける
あんっ
はあ
はあ
しかし…これから先
君にはあまりにも
きびしすぎる
それに君のお父…
だめ…!!
それ以上 言わないで
今だけ 今だけは
忘れていたいの
グクッックッ


!?


アルベルト…
お願い…
無理をすると
裂傷をおこす
…わかった
お願い


ん
くふ
グッ
クン
キャッ
チャッ
アルベルトの優しさとともに ゆるやかに——
——時間が流れ…
私は幸福の波にひたった…


その夜 わたしと
アルベルトは結ばれた
多くの障害の中で…
互いの愛を深めた
デュイスブルク
その夏 私は日本へ
帰らなかった…アルベルトとの
生活に全てを忘れようと
していた…しかし…


!?
ユミ…
お嬢様が
帰られた…
サインを…
早く!!

あのお父様が
見のがすはずが
なかった…
夏休みも
終るころ…
アルベルト…
私達のアパートの
前にいたのは
父の部下だった


アルベルトォォ
わあ
バラバラッ
お嬢様!!
!?
あっ
ドン

お嬢様!!

ユミ!

Nein! Nein!
(いや!
いやよ!)

Nein! Arbert!
(いや! アルベルト!)

僕の愛しいユミ…
よく聞いて…

今の僕には
君を幸せにする
力がない

いやあ

アル…

君は日本へ
帰るんだ…
それが君に
とって…

Auf wieder shen
(さようなら)

会長の命令で
大学の方は
退学の手続きを
いたしました

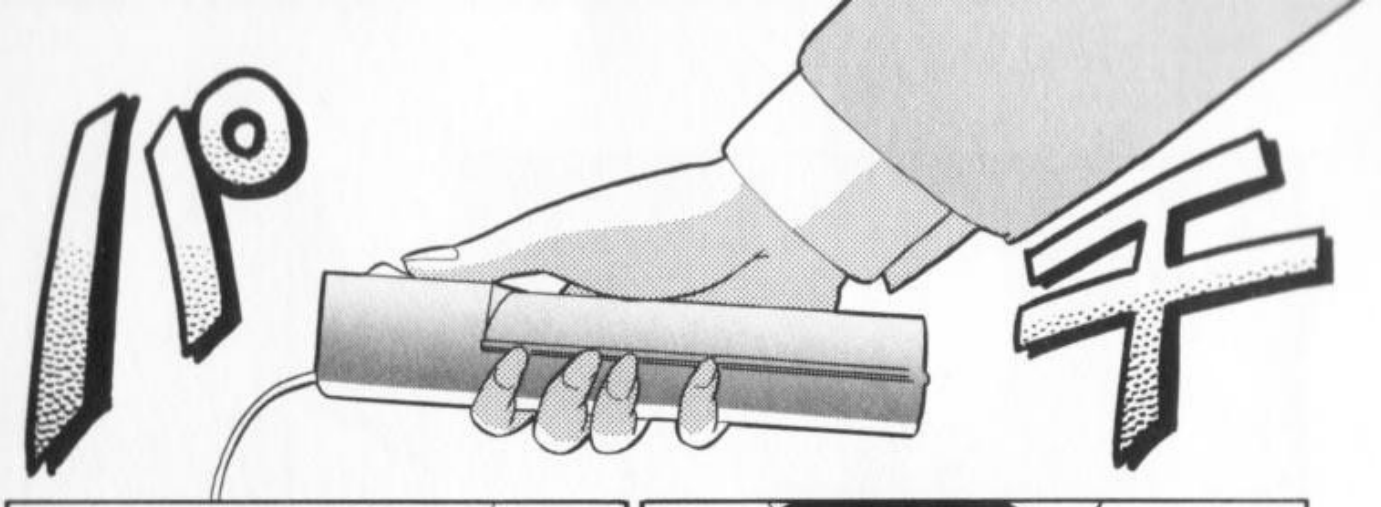
グデーリアル氏は
お父様より融資を
受けられました

お父様は
その条件として
由美様の帰国を
望んでおられます

Arbert

Ach…




パチ


この下着をつけてもらうわ
ビクッ
!!


さあ出かけるわよ由美
!


でも…その姿じゃ
外に出られないわね…そうだ!


ドクンドクン
ドクンドクン


はあ
はあ
まって…


お願い…もう少しゆっくり…
…あ歩いて
……
フラッ


はあ
あっ
はあ
はあ
何をもたついているの
歩くことさえ満足にできないのあなたって!!
ううー…
お姉ちゃん
お姉ちゃん
ポン
おぢさんとのみに行こ♡
高そうなコート着てるね
どこのお店につとめてんろかな
ヒキ
!
いや!
あう
ドン
ズル


ひどいなあ
もっと仲良く…ん？
お姉ちゃんキレイな足だねー
はああ
あっ
ずりずり
いいやあ


お金払うからさちょっとさわらせてよ…いいだろ
ぐいぐい
見られる…見られる…見られる……!!
未呂山（みろやま）さん!!

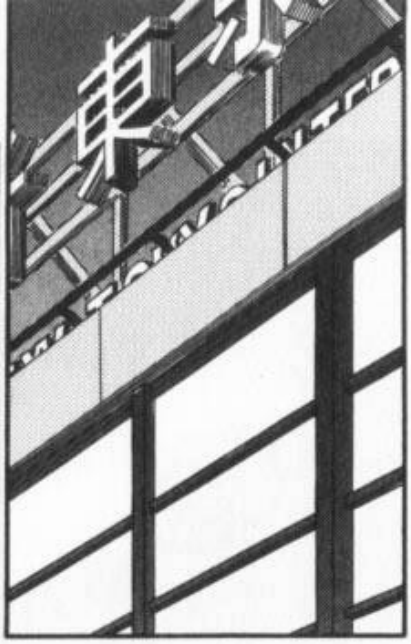

ほらほら迷惑ですよ！行きましょう!!
ちょっと待て俺はあの姉ちゃんと遊びに行くんらから
早く帰らないと奥さんうるさいですよ
だまれ あいつはオレを…
ほらだめですよ
…
コツ
コツ
キサマー俺は上司だぞ
さあ行きましょまた誰かにからまれない


彼女がどこへ
私をつれて行こうと
しているのか…
もうどうでも
良かった…
下腹部で
うごめく異物は
容赦なく私を
責めたてて
くる

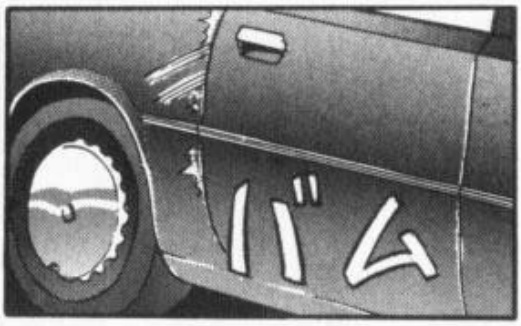

ブワ
ヒュウウウウ
!!
もうだめェェ
いやああ
もうこれ以上
歩けないっ!!


好きになさい
わたしは
行くわ…
いいや!
お願い…
一人にしないで
全裸で街を歩くことの
異常さが 狂気へと
私を導く…
通行人の目が
風が 街燈が…
すべてが恐怖だった


ご苦労様です
会長…カバンを
うむ


東京

——新東京国際空港(成田)——

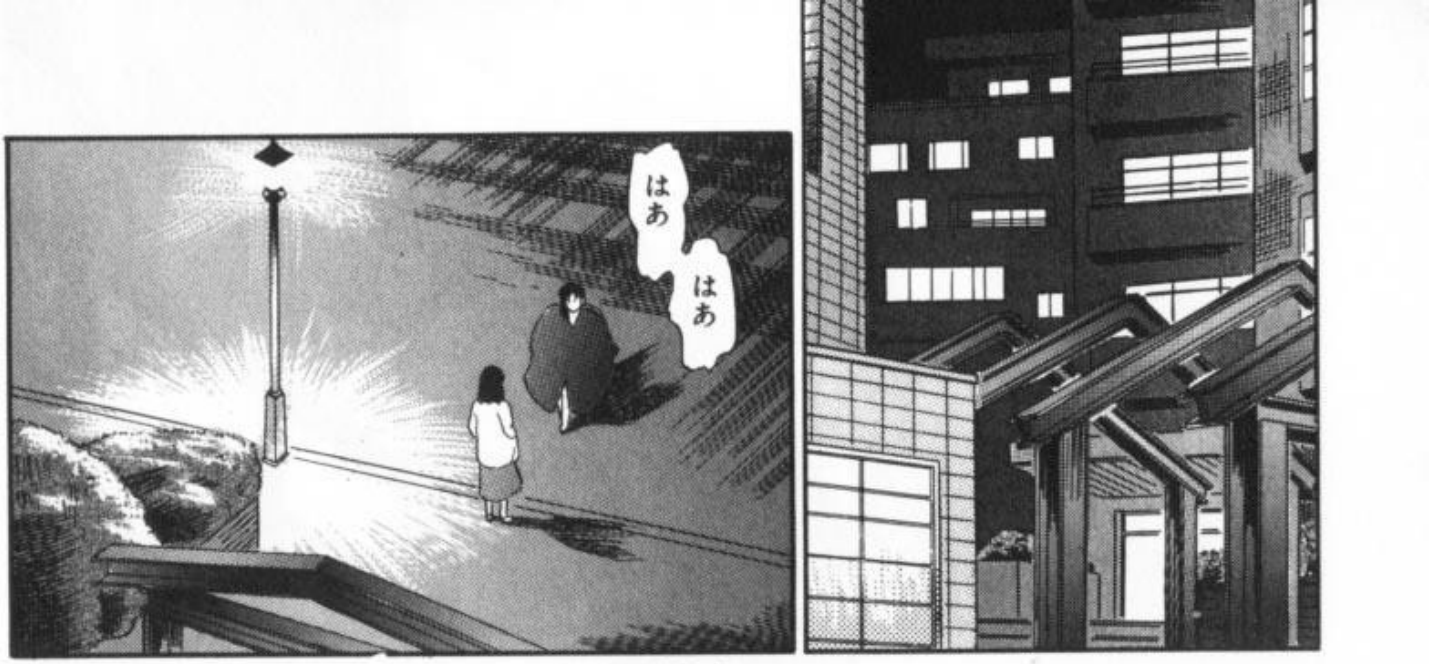

バム


舞香は?
はっ
先ほど 青山の方で
お待ちになると…


行ってくれ
はあ…
しかし…
お屋敷の方には…?


良い ここのところいそがしかったからな
かわいいではないか「待っている」などと…


ウロロロロ…
キュキュッ
会長… あなたは間違っておいでです…
舞香様のお心一度でもお察しになったことが おありですか…



メゾネットパークヒルアベニュー



Last Night

ラスト・ナイツ



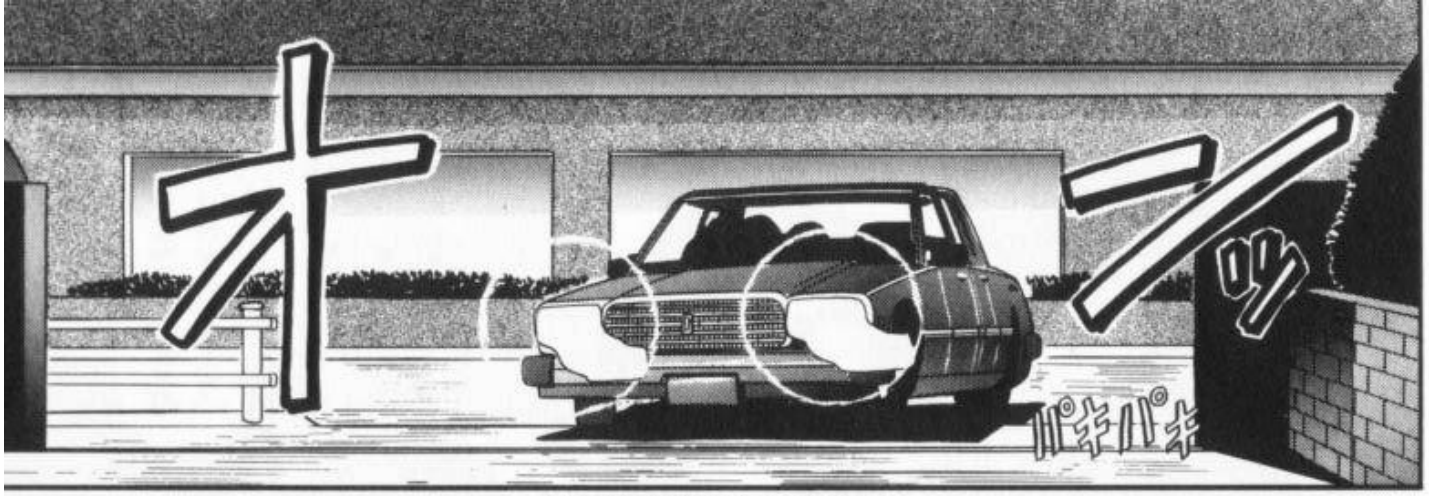
遠き貝楼の果てを
もとめ　旅をしたい

今もなお　心に残る爪跡に
病む胸は熱く

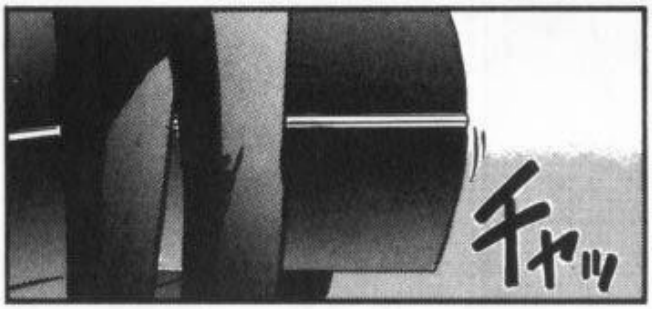
舞香

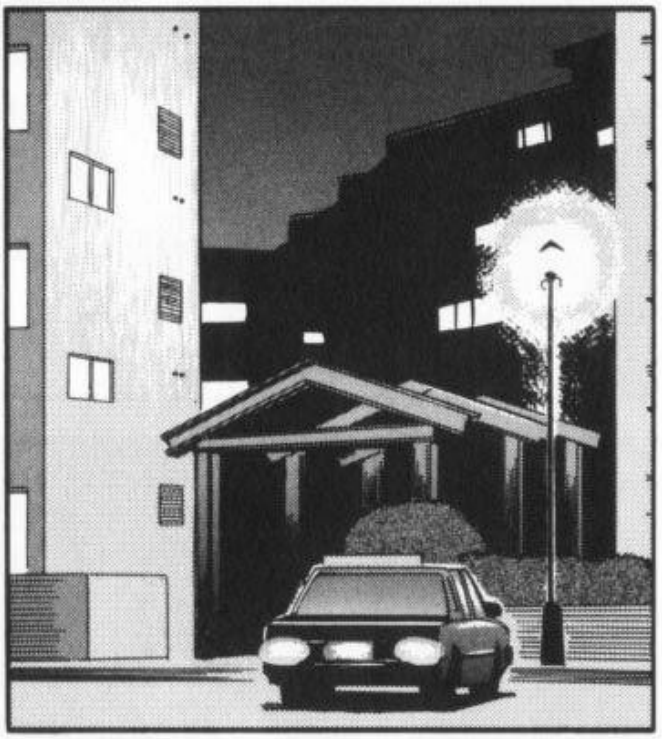
Yama Scan


大井 14km
日 11km
会長…
由美様が一週間前より姿を…
学院の方には連絡がありましたが…
だからどうだと言うのだ しょせん由美は手の中の内であがいているにすぎん……
ほおっておけば良い…
いやな予感が…舞香様はいったい何を…!?
RRRRR…
はい中川…!!
舞香様…どこにおいでです
何をおっしゃるんですか…!?
いずれわかるわ…
くすくす
ごめんなさい…疲れちゃった…
だからお部屋で待っと伝えて
ある人を会わせたいのよ……そう おじ様にねもうすべて終りにしたいの
ガチャン
舞香様



メゾネットパークヒルアベニュー














何がほしい？
ラルフ・ローレンの
イブニングドレス
よしよし…
この次 行った時
手に入れてやる
そのかわり今夜は
かわいがってやる フフフ






ちょっと
待って…


くくく…
舞香
じらすでない


急いじゃだめ
今日はおじ様
のために
すてきな
〝おもちゃ〟を
用意したのよ


ほお




うっ
ふー
ふう


「誰かがいる」


舞香に凌辱されつつもかすかに残る理性に
ふーッ
人の気配を感じていた…


この女ね こうしてやるととても感じるのよ 特にお尻の方がね
体の線もくずれておらん… なかなかのものだ


お父様!!


楽しませてもらうとしようか
くう
うっ


わたし同様あなたの望む姿の女ですもの
たっぷりと味わうといいワ
ピチャピチャ


むうっ
んんっ
ククククックッこの胸の張りますます気にいったぞ


ビンッ
!!


逃げるでない
いやあ!!
ぬうっ
ううっ
ピチャピチャ


くあっ


舞香…!!
あなたはいったい
何を…!?
このままお父様に
犯されろ
というの…!?
え!?
ズグッ
ズグッ
ズグッ


ずっずっずっ
ひイイッ
ぐうつ
あっ
ああ
くくく…
つらいか？じきに
良くなってくる
ぞくっ
お父様にはもう
人の心さえ残って
いないというの？
なら好きなだけ
犯しなさい!!
娘のわたしを
ズッ
ズッズッ
うっ
ぐう
!
ズズ
ううっ
ぐっぐっ


ズッ
ズッ
ズッ
うッ
ん
ん


そうして由美の体を
楽しむのも
今のうちよ 父さん
今にその喜びが
わたしへの怒りへと
変っていくわ
あうっ
んくっ
ぐふ
うむっ

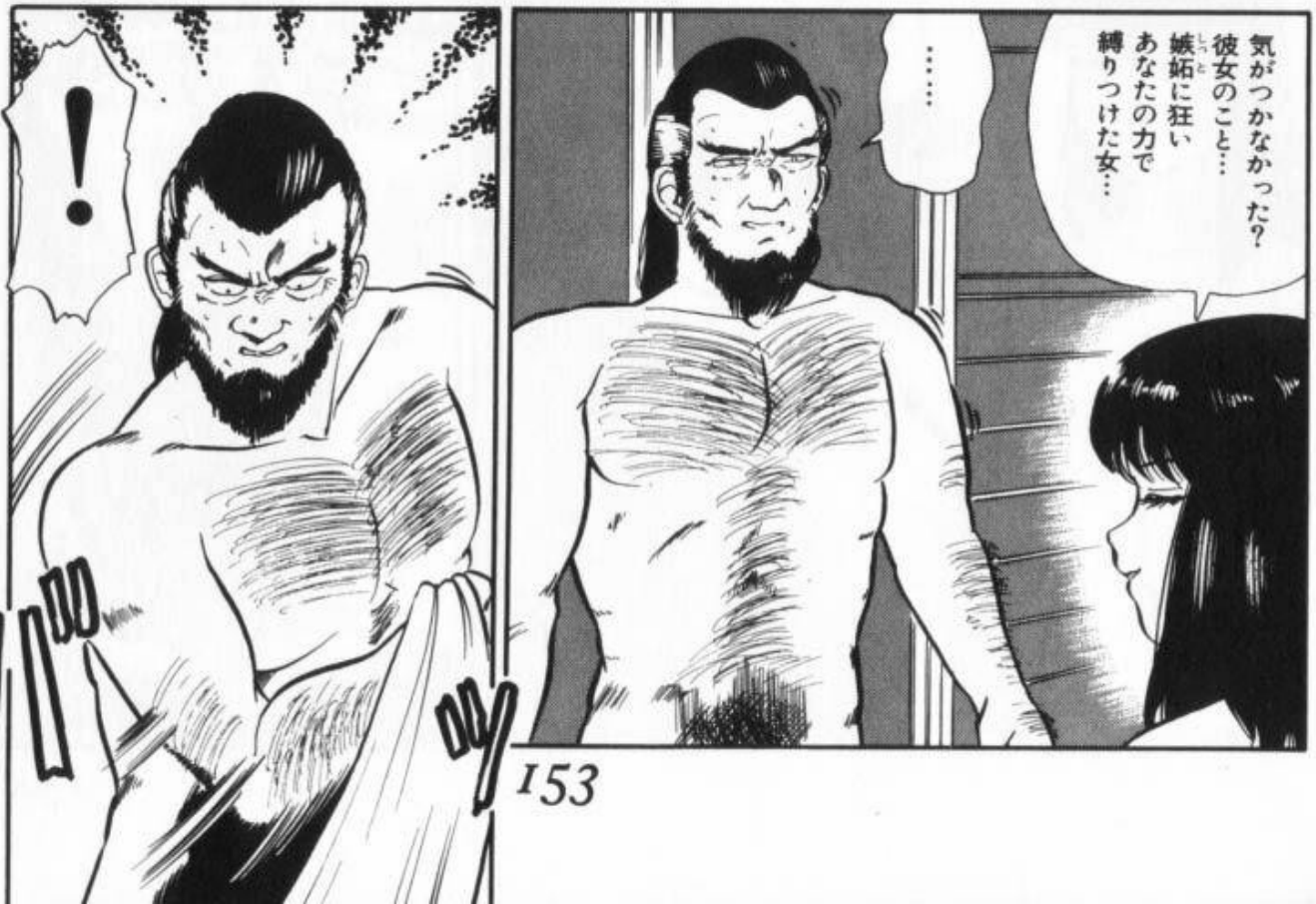

ぐっ
うっ
……
……
むあ
あんん
ふッ
うっ


あふ
ああ
……
あっ
ズッ
ズッ
あふ
フ…
ああ


ズン
ズン
むあああっ
ビクッ
ビクッ


ハーッ
ハーッ
フッ
うふふふ…
こうして見ると
男なんて本当に
おろかなものね…
何!?


高価な服や
広い部屋なんて
本当はほしくなかったわ
お母さんやわたしに
優しい おじ様で
いてほしかったのに…
なのに 欲望を
みたすためなら
自分の娘にだって
手をかけて……
それだけじゃないわ
自由をうばわれた
みじめな姿にして
楽しそうに
それをながめる…


気がつかなかった?
彼女のこと…
嫉妬に狂い
あなたの力で
縛りつけた女…
……
!


由美!!


……
ゆ 由美だと?


舞香オ!!
フッ


中川だ…
由美様ですが先週学寮へ行ってからの足どりが……
それはわかっている
RRR…
RRR
わたしが知りたいのは 何の用で行ったかだ…
申しわけありません 加納舞香の部屋へ行ったとしか…
その後の足どりはまるで…
中川様?
もしもし 中川様!?
まさか
会わせたい人がいるの…
もう終りにしたいから…
お嬢様!!
中川様
中川様


どうだったかしら
二人目の娘の味は…
もっとも人の心を
持たないあなたには
ただの女でしか
なかったかもね…
舞香…
お前…
ええ…
知ってたわ
あなたが父親で
あることも
母さんが
生きていた時から
あたしに目をつけて
いたことも
フッ
私への復讐と
云う訳か……
まったく恐しい
娘よ……
やはり
気づいていた…
ああ……
…舞香……
そうよ…
あなたがそう
しむけたのよ
あなたは由美を
許していなかったわ
彼をあんなみじめな
別れ方をさせても
そのやり場のない
怒りをあたしで
はらそうとしたのよ


思い上るなよ
舞香、妾の子が
幸福になれるとでも
思ったかっ、フフフ
私の力なしに…
キッ
たしかにな私はまだ
由美を許しておらん
正統な血を引く
私が高峰の家にどこの
馬の骨ともつかん
男を息子と呼べるか!!
それを…何を血迷った
かこの私をおとし入れ
由美を抱かせるとは
男に生まれていたなら
たとえ妾の子でも
迷わず 私の後継者に
しただろう
……
ガッ
本当に愛い奴よ
舞香…
私の手で
母親のもとへ
送ってやろう
チャッ
……
!!


これで
お母さんの所に…
もうこれ以上
悪夢の中を
さまようことも…


!!
会長…
早まられた事を!?
パアアアア
舞香様は
いったい何を!?




……!!
いやあ


由美…
まだこの私に
逆らうのか!!
そこを
どけエい!!
ガク…
由美
由美!!
いやです

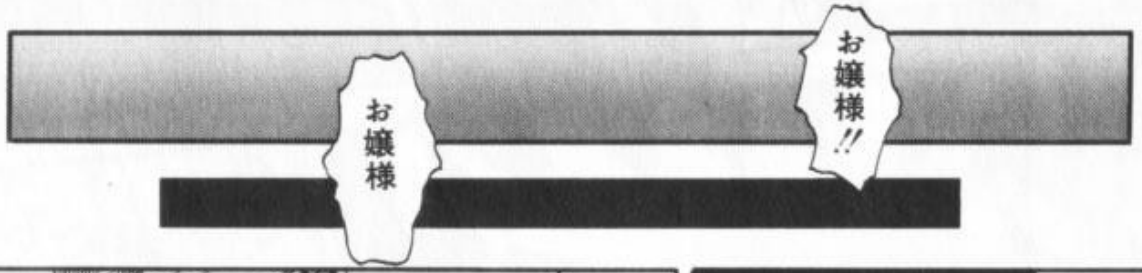

私たちは
血のかよった人間です
…普通の女です…
恋だって…するんです
ハァ ハァ
それを…お父様は
ご自分のエゴで 私と
アルベルトを引きはなし
この娘に手をかけ
殺そうというのですか
どうしてもこの娘を
殺すというのなら
私も一緒に殺して
……


!?


……!!!!
由美様…
ハァ
ハァ
…なんということを…


中川…
貴様(きさま)まで!!
ダッ
ガッ
ドン
ドカ


お嬢様
お気を確かに！
……
ハア
…この子…
…お父さ
ハア
…まの
ハア
手の…
とどかない…


お嬢様!!
お嬢様


弾は貫通している
出血は多いが
命に別状ナシだ


すまんな
退院するまで
たのむ
それはかまわん
あの子はどうする？


俺の責任だ
もっと早く
手を打つべき
だった
お嬢様との
約束もある
後は俺が
なんとか
する


…由美…お
お お姉さん…
だいじょうぶ
3週間もあれば
退院できる
お願い
一目だけでいいの
会わせて…
……ああ
5分だけなら
かまわないよ
はい はい…
さようなら…





—End—

小悪魔の降る夜に

初出誌
コミックフラミンゴ(編集人・須賀静香, 三和出版・刊)
vol.7(平成元年11月), **9**(平成2年1月)～**15**(平成2年7月)

アシスタント
多摩川大吉楼
藤田正太郎

スペシャルアシスタント
大米我渡

ドイツ語アドバイザー
西村悟



解説

海野やよい

――夜……。富秋先生の描く女の体には夜が似合う。それがたよりない間接照明の灯りでも、月の灯りでも、その微かな光源でよりいっそうの妖しさと、美しさがあふれだす。柔らかくうねる黒髪と確かな質感を持った肉体が、しっとりとした感触を持って描き出される。重ね合う少女たちの唇の柔らかさを想うとき、微かなとまどいとそして確かな胸の高鳴りを覚える。

『小悪魔の降る夜に』は読後感がいつもせつない。言葉でも体でも表わし切れない想いを抱くのだ。

一読者としての私は、年令も近いせいか『由美』に感情移入してしまう。

こんなことを言うと笑われてしまうかもしれないが、すぐれた作品に出会い、その登場人物に感情が入ってしまうと、ＳＥＸシーンなどで、不意にそのときの感覚がよみがえってしまったりする。そんな私なので、『由美』が『舞香』に舌を吸われたり、乳房を弄ばれたりするところを読むと、ふっと、指先からちからが抜けてしまったりする。

愛する人の言葉に逆らい切れない心と体。唇からはそれを拒む言葉が出てくるけれど、与えられる肉の喜びと、プレイが激しければ激しいほどに、その後の優しさが心をとらえて離さない。

由美が自らの言葉で語っている。

「引き返すことのできない迷路を進むかのように私は落ちてゆく――」

想い人として、姉として、妹として。入り交じった感情と、人間関係。それを描きあげる富秋先生の力量には脱帽してしまう。SM官能であり、復讐劇でもある。その絡み合った人間関係とストーリーがこの作品の面白さの所以となっている。

下手なストーリーは、その作品を読み物としてつまらなくすると同時に実用にも適さないものにしてしまう。反対にストーリーなどなくても、自分が興奮できるシュチュエーションやプレイが一生懸命描かれていれば、それは必ず読み手にも伝わる。

その点、富秋先生の作品たちは、読み物としても、実用としても通用する素晴らしいSM漫画だ。私が富秋先生の作品たちを愛読する理由もそこにある。

ところで、この作品が『コミック・フラミンゴ』誌上に連載されていたころ、私はいつも「ファンレターを出そう！」と思っていた。そして思っているうちに次の号が出てしまうので、「これを読んだらきっと書くのだ！」と思いつつ半年ほど過ぎるともうお話は佳境に入ってしまう。「うーむ。しかたがないから、最終回を迎えた暁には絶対出すのだ！」と心に決めていたらこのような機会が巡ってきた。何という幸運。同じ雑誌で連載していて本当に良かった。

富秋先生ご本人はとても素晴らしい方で、優しく、穏やかで、回りの人に良く気を使われる。そんな人だからこそ、このような素晴らしい作品を描きあげることができるのにちがいない。女性読者も安心してファンレターなど気軽に出せば良い。

最後に、このような私に巻末を汚させていただく栄誉を与えて下さった富秋先生に感謝いたします。

SANWA COMICS
No.32

小悪魔の降る夜に

平成2年10月15日初版第一刷発行

定価880円(本体854円)

著者　富秋悠

発行人　浅田昌弘
発行所　三和出版株式会社
【営業】〒101東京都千代田区神田神保町1-7三光堂ビル5F☎03-291-8911
【編集】〒101東京都千代田区三崎町3-6-14第2ハンタービル7F☎03-237-1175

SANWA COMICS
No.32

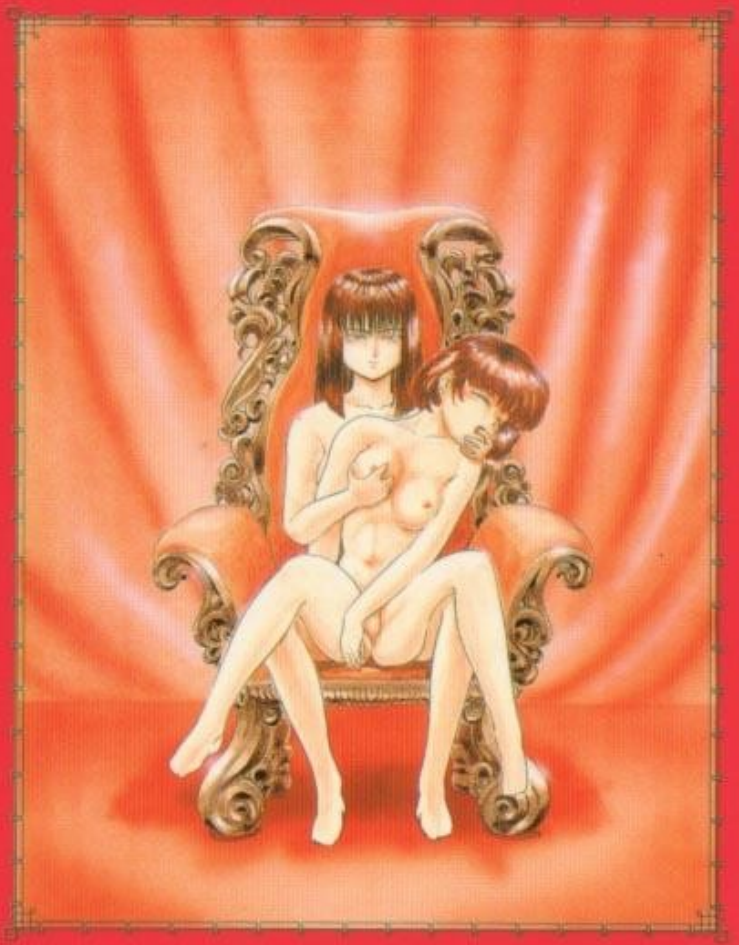
小悪魔の降る夜に

平成2年10月15日初版第一刷発行

定価880円(本体854円)

著者　富秋悠

発行人　浅田昌弘
発行所　三和出版株式会社
【営業】〒101東京都千代田区神田神保町1-7三光堂ビル5F☎03-291-8911
【編集】〒101東京都千代田区三崎町3-6-14第2ハンタービル7F☎03-237-1175



SANWA COMICS No.32

小悪魔の降る夜に



雑誌53910-32

三和出版

定価880円（本体854円）